

# 60年度当初予算など 42議案を可決



3月定例市議会

三月定例市議会が、三月四日から十八日までの十五日間にわたって開かれました。今定例会では、「六十年度当初予算」などが提出され、いずれも原案どおり可決されました。このほか五十八年度各会計決算も承認されました。

### 六十年度当初予算は

二百五十九億八千万円

一般会計、特別会計、企業会計の五十九年度補正予算および六十年度の当初予算が、今定例会で可決されました。

### 五十九年度

#### 一般会計補正予算

一般会計の歳入、歳出にそれぞれ五億九千八百七十一万二千円を追加し、五十九年度の最終予算総額は百四十一億二千三百七十七円となりました。歳出の主なものでは、市立病院へ負担金九千九百万円、広域圏組合へ処理施設管理費二億七千万円、水道企業助成費二億五千万円、へき地保育所運営業務委託料九千八百万円などとなっています。

### 六十年度当初予算

一般・特別・企業会計を合わせて二百五十九億八千七百七十八万四円となり、前年度に比べ二・八%の伸びとなりました。

なお、六十年度予算の内容については、四・五面でお知らせします。

### 特別職の報酬を改正

市長、助役、議長、議員など特別職の報酬額が改正されました。

- 市長 月額六十七万四千元 (改正前六十二万四千元)
- 助役 " 五十二万四千元 (改正前四十八万五千円)
- 収入役 " 四十七万五千円 (改正前四十四万五千円)
- 議長 " 二十八万五千円 (改正前二十六万五千円)
- 副議長 " 二十五万五千円 (改正前二十三万五千円)
- 議員 " 二十四万五千円 (改正前二十二万五千円)

### 銅板屋根の建設に費用の一部を補助

当市が黒鉱の主産地であることから銅製品の消費拡大を図り、地域の経済の活性化に結びつけるために屋根銅板ぶき推進補助金制度が制定されました。これは、市民が住宅などを建設する際に、屋根を銅板ぶきにした場合最高二十五万円までを補助するものです。詳しくは、六面をご覧ください。

## 行政報告

3月定例市議会が招集された3月4日、富山市長が行政報告をしました。その中から主なものをお伝えします。

### 六十年度の水田利用再編対策について

60年度の目標面積は59年度より28ha軽減された599haで、また他用途利用米については59年度より18.2ha多い78ha7,420俵となっています。

60年度の水田利用対策については、2月5日開催した地域農政推進大会で、さらに2月26日からは地区別に説明会を開いています。

### 長木ダム建設に伴う奥地開発について

このことについては、昨年10月岩手大学農学部教授に開発計画業務を委託してきましたが、近く計画書が完成します。ダム建設については、60年度に事業計画の作成に着手、61年度には実施予定ですが、6～7年の年月を要するものと考えています。

### 地場産業振興対策について

木材関連産業および鉱山業が低迷を続ける中で、地場産業振興対策のひとつとして大館市木材需要拡大協議会が製材団体、建設協会、建設技能組合、設計団体商工会議所、森林組合、営林署、市の構成で、2月26日県内で初めて発足しました。

また近年着工件数の落ち込んでいる木造住宅建築と銅板葺屋根を奨励し、地場産業の振興と黒鉱の街大館市のイメージアップを図るため「大館市木造住宅等の屋根銅板葺推進補助金交付要綱」を制定し、4月から住宅建築者に補助したいと考えています。

### 特別養護老人ホーム建設について

高齢者対策の一環である「医療機関との複合施設」については、これまで検討してきましたが、60年度で社会福祉法人による特別養護老人ホーム建設の目途がつかしました。この用地については民有地を含め地権者と59年度内に仮契約できるように交渉を進めています。

### 米代川流域下水道大館処理区について

このことについては、秋田県が米代川流域別下水道整備総合計画に基づいて、川口地区を終末処理場の予定地として地権者および関係者などを対象に説明会を開催しています。

そして昨年12月、地元の了解を得て3カ所にボーリング調査したところ、地盤は処理場築造に問題はないようです。

県では、4月までに地権者の了解を得られれば61年度に事業着手したいとのこととです。